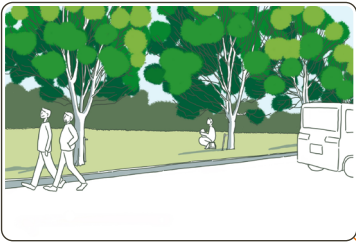
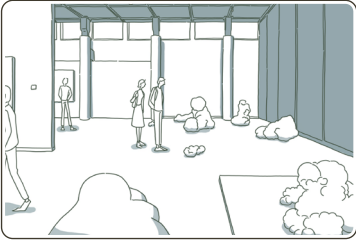


東京藝術大学キャンパスマスタープラン 取手キャンパス編2020 全体計画 将来のイメージ

イラスト：島田智世



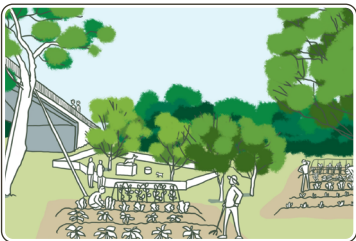
屋外運動場：屋外交流空間・展示スペースとして今後のための予備地。



大学美術館取手館：収蔵品の有効活用、教育活動の公開展示などを行う。地域への公開を検討。



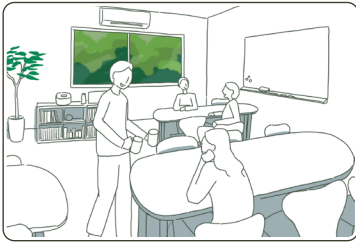
屋外アート作品群：道路沿いを実証実験の場として、作品が活きよう、外灯・街路樹を整備して賑わいをつくる。



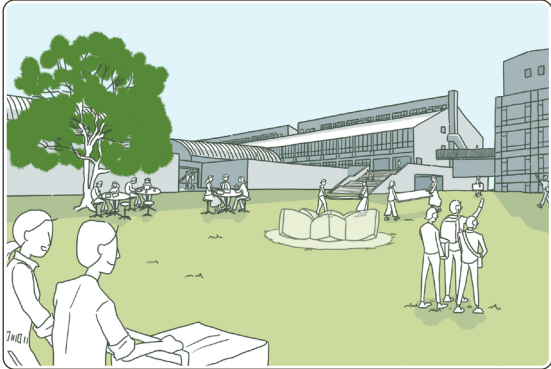
教育研究活動で急傾斜を利用した屋外展示を行う。半農半芸プログラムによる地域参加の農園、伐採した竹を作品材料に使う、果樹園・養蜂・ヤギの飼育（草地の管理）など、キャンパス環境を活かした共創を検討する。



福利施設（藝大食堂）：ランチミーティング、企業との交流会、公開講座・TAPの拠点、地域住民の日常利用を進める。



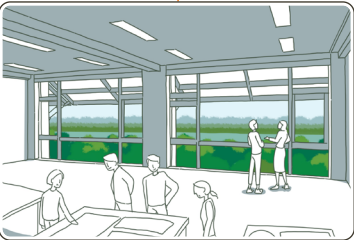
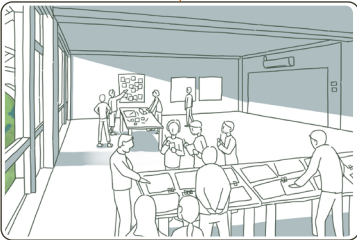
短期学生宿泊施設（利根川荘）：宿泊施設の日常的な国際交流。共通工房棟の活動支援・連携を担う。



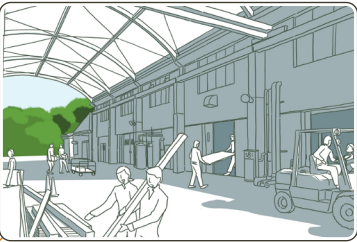
中央広場：キャンパス全体の活動が見渡せ、教育研究活動と建物や工房、屋外空間が有機的に連携、一体化する「共創」の屋外拠点とする。作品展示やイベントにも積極的に利用する。



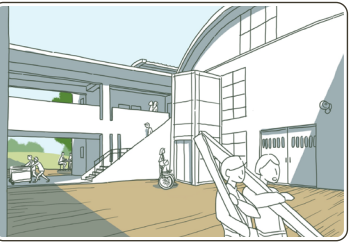
メディア教育棟：中央広場との繋がりをつくり、多様な人々が行き来しやすい、地域に開かれた場を構築する。**ギャラリー・図書・AMCコーナー**では、分野の枠を超えたコラボレーションを生み出すオープンスペースを計画。**アトリエ**では、利根川を遠望しながら集中して学修できる共有スペース、学生同士のアクティブラーニング、ICTなど、新しい共創の場をつくる。



屋外交流空間、展示・農園、斜面を活かした教育研究活動・半農半芸で地域参加も含めて展開する。



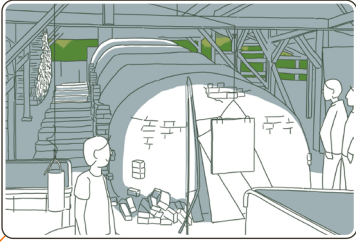
共通工房棟：イノベーション・コモンズ（共創の場）の中核をなす各科共通の施設。学外との共同研究や受託研究等を行い、より地域・企業・世界に開かれた工房群を目指す。



漆実験林：屋外を活用した実証実験の場としてさらに活用する。



教育資源としての保存緑地、自然素材の研究、森の中での展示ができる。



登り窯：自然環境と地形を活かした専門性の高い制作活動を更に展開する。



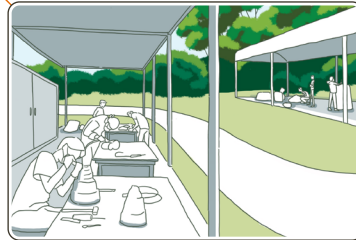
集約したアトリエ群：豊富な自然環境を活かしつつ、集約しながら多様な制作空間による共創の場をつくる。



点在する窯：起伏のある小道沿いに窯を点在させて、より活発な創作の場となるよう屋外を有機的につなげる。



専門教育棟：集中して創作活動・展示ができる場。アトリエと、吹抜のオープンギャラリーを一体感のあるスペースに展開していく。



石彫野外制作場：専門教育棟に隣接させることで、便利性・安全性を強化し、屋外のアクティビティをつくりだす。